

1. 教育課程編成・実施の方針

英語科の卒業認定・学位授与の方針で示された能力を学生が身につけることを可能とするため、教養科目、英語科目、基礎・専門科目を効果的に編成します。知性の段階的発展を可能とし複数専門科目群を収める幅広い知を提供する教育課程を構成することで、キリスト教ヒューマンイズムの精神と人間理解を礎とする教養を身につけ、自己発信力に重点を置いた実用的かつ学術的英語力を修得し、国際的な視野と地球市民意識から得られる専門的知識と協働・共生の力を発展させ、国際社会・多文化共生社会に貢献する人材を育成します。

【獲得すべき学修成果五つの視点】

英語科では、卒業認定・学位授与の五つの方針で定められた能力を獲得するために、「キリスト教ヒューマンイズム理解力」「教養力」「英語力」「専門力」「地域の国際化・多文化共生力」の五つの修得すべき学修成果を尺度に精査した授業やプログラムを配置します。

【科目群別課程編成方針】

1. 教養科目群

本学での学びの基礎を築く教養必修科目として「人間学Ⅰ」を配置します。同科目ではキリスト教ヒューマンイズムに基づく人間観を理解し、他者とのかかわりの中での自己形成を目指します。そこでの学びを受け、主に人文・社会科学各分野における学問体系に関するバランスのよい知識・理解を得ることを目的に教養選択科目を配置します。

2. 英語科目群

2-1. 必修英語科目

第1～第4セメスター（それぞれ準備期・発展期・応用期・完成期）にわたる履修のため、各学期に「必修英語Ⅰ～Ⅳ」を配置し、学修内容としてそれぞれ他者とともに生きる、異文化との遭遇、日本における社会問題、日本と世界というテーマを発展的に学び、自己発信力に重点を置きながら英語の4技能を修得します。ペアワークや発表等の能動的学びが中心的活動を成します。それらを通し、「他者のために、他者とともに」という本学の教育の精神を持つ責任ある地球市民となるために必要な知識と理解を深め、複眼的・批判的・論理的な思考力を伸ばします。同時に他者の考えを尊重しながら自分の考えを効果的に表現する力をつけます。課題やindependent learningを通し自律した学修者となるための技能を身につけます。また各学年の学生が適切な習熟度別のクラスで学べるようクラスを編成します。

2-2. TOEIC対策講座科目

第1セメスター（準備期）及び第2セメスター（発展期）までの履修のため、各学期に「TOEIC対策講座Ⅰ・Ⅱ」を配置し、グローバル化する社会で職業人としてキャリア形成を行うために必要な英語力の基礎を身につけることを目指します。課題やe-learningを通し自律した学修者となるための技能を身につけます。また各学生が適切な習熟度別のクラスで学べるようクラスを編成します。

2-3. 英語スキルズ科目

第1セメスター（準備期）、第2セメスター（発展期）及び第3セメスター（応用期）の履修のため各学期に「英語スキルズ科目」を配置し、学生が様々な英語技能やアカデミックなトピックを扱う科目を選択し、それらの技能の発展、トピックに関する知識・理解を深めることができるように、科目を編成します。また習熟度別のクラスを配置します。

3. 基礎科目群・専門科目群と専門領域

本学において専門性と結びついた知識の修得を可能とするため、基礎科目群・専門科目群内に以下の4つの専門領域を設けます。

- 3-1. 異文化理解
- 3-2. 英米文学研究
- 3-3. 言語研究
- 3-4. 言語教育

4. 基礎科目群

本学が定める4領域のテーマを学ぶにあたり、導入科目となりうる科目を基礎科目群として配置します。主に第2 Semester（発展期）から第3 Semester（応用期）での履修を念頭に置いています。

5. 専門科目群内の選択科目

本学が定める「異文化理解」「英米文学研究」「言語研究」「言語教育」の4領域において効果的に科目を配置します。各領域は、多様な分野において知識・理解の点で独自の教育内容を持つ科目によって構成されます。基礎科目群の概論科目での学びを受け、主に第3 Semester（応用期）から第4 Semester（完成期）に、専門的知識や技能を修得することができるように、専門科目を配置します。また科目群の一部で反転授業を行い、同時にアクティブラーニングの手法を用いて、能動的な学びや課題解決と結びついた学びを実施します。

6. 専門科目群内のゼミナール科目

本学では、段階を踏んだゼミナール科目を4 Semester（2年間）にわたって設けています。

6-1. 基礎ゼミナール

第1 Semester（準備期）に履修し、大学で学ぶにあたって必要なアカデミックスキル修得の導入教育を行い、リサーチの基礎・論文作成・口頭発表の方法を学ぶとともに、キャリア設計の第一歩を踏み出すために必要な知識を身につける演習を行います。

6-2. プレ・ゼミナール

第2 Semester（発展期）に履修し、特定の研究分野において自身の研究テーマを設定し、それに基づく演習を通して、能動的な学びを行います。このような学修により、基礎的研究手法を用い、論理的・批判的思考力、論文作成力、口頭発表力、協働により問題を解決する力を身につけます。

6-3. ゼミナールⅠ、ゼミナールⅡ

第3 Semester（応用期）と第4 Semester（完成期）にそれぞれ履修し、自身の設定したテーマをより深く研究していく過程で、高度な研究手法の知識を得ます。自律的思考に基づく独自の問題提起をし、討論、口頭発表、研究論文作成力の素養を統合的に身につけることができます。協働により問題を解決する力もより発展させます。「ゼミナールⅡ」では、学修成果の集大成としてゼミナール論文の作成を行います。

7. 基礎科目・専門科目群内のサービスラーニング関連科目

キリスト教ヒューマニズムに基づく奉仕の精神と地球市民的意識を持って、多文化共生の実現に向けて実践することを目的にし、基礎科目・専門科目群内にサービスラーニング関連科目として、児童英語教育や日本語教育等の科目を配置します。正課カリキュラムでの学びを受け、その成果を地域社会で実践し、地域社会で学んだ内容を授業へとフィードバックします。またサービスラーニング関連科目には、アクティブラーニングの手法を用いて、能動的な学びや地域社会での課題解決を行う科目もあります。

8. インデペンデント・スタディ

指導教員の下、学生が独自に設定したテーマについて、主体的に調査・考察した成果をまとめ、発表を行う自律的総合学修です。本プログラムはゼミナールや専門科目等で学んだテーマをさらに拡大・展開させたり、新たな知の領域に挑戦したいという学生の積極的な学修・研究意欲に応えるために設置されています。

9. 上智大学科目等履修生制度の導入による単位認定制度

上智大学で開講されている科目を本学の学生が履修することができる制度です。この制度では、セメスターごとに6単位、最大12単位を上限に履修することができ、修得した上智大学の単位は本学の単位として認定することができます。この制度を活用することにより、本学で開講されていない領域や、多様な専門的学問領域をより深く探求することができます。また難易度別のナンバリングに基づき、本学開講科目と上智大学開講科目との間で整合性を取り、単位認定を行います。

10. キャリア形成支援

本学は、キャリア教育の一環として、学生の多様な進路希望に対応するために、キャリアパスや就職、編入学に関する科目やガイダンス、専門カウンセラーによる個別指導等の支援プログラムを設けています。これらのプログラムに主体的に参加することにより、社会人基礎力を成長させ、編入学や就職等における実践的な知識を得ることができます。

学修成果の評価

本学は卒業認定・学位授与の方針が示す能力及び資質の修得に向けた学生の学修成果獲得状況を把握し、教育課程の改善を行うため、以下の内容及び方法により評価を実施します。

- ・キリスト教ヒューマニズム理解力及び教養力の学修成果の評価は、教養必修科目「人間学 I」を通して得た学びの成果を基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、ルーブリックを用いて実施します。
- ・英語力の学修成果の評価は、在学中に定期的に受験する外部試験TOEICのスコア、成績評価・GPA、卒業時アンケートを基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、実施します。
- ・専門力の学修成果の評価は、学びの集大成であるゼミナール論文の成果を基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、ルーブリックを用いて実施します。
- ・地域の国際化・多文化共生力の学修成果の評価は、サービスラーニング・ポートフォリオ及び卒業時アンケートを基とし、所定のアセスメントポリシーに則り、実施します。

総合的な学修成果の評価として、以下の評価物を含むアセスメントを適宜実施します。

- ・科目別及び全科目についての通算成績評価の分布（A－F）と推移（個人、グループ、学年別等）
- ・科目別及び全科目についてのGPAとその推移（個人、グループ、学年別等）
- ・学習意欲及び学修行動に関する調査結果
- ・入試種別ごとの学修成果及び進路データ（エンロール・マネージメント）
- ・就職・進学率
- ・卒業生進路先アンケート
- ・卒業生アンケート

2. カリキュラムマップ

学位授与の方針	共通科目 各方針 各方針 各方針	上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマニズムを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかかわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探索し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民の立場から多文化共生の理念を実践できる人材を育成します。	
		1. キリスト教ヒューマニズムの精神に立脚し、他者とかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます キリスト教ヒューマニズムの精神を、キリスト教倫理や哲学において理解し、そこで獲得した視座に基づき人間及び社会的現象を考察できます。そして、その精神の根底に在る人間の尊厳への敬意、他者愛、献身の心を深く理解するとともに、他者とかかわりの中で自己形成を行い、人間関係、共同体を構築する力を備えます。	2. 学術的な学びを行うために必要なアカデミックスキルを身につけ、幅広い教養を修得できます 大学での学びに必要な読解力、論理的文章構成力、発表力を身につけます。同時に人文・社会科学を中心とする幅広い教養を修得し、人間と社会にかかわる多様な事象を理解し、意見を発信する力を身につけます。

修得すべき学修成果大分類	キリスト教ヒューマニズム理解力		教 養 力	
	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点
(第四セメスター・完成期)	◆キリスト教ヒューマニズム関連科目 「人間学Ⅰ(再)」 「キリスト教文化入門」 「ゼミナールⅡ」 「倫理学」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、文化 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【態度・志向性】自己形成力(「人間学Ⅰ(再)」) 【協働・共生】他者との協働力(「人間学Ⅰ(再)」)	◆「基礎ゼミナール(再)」	【知識・理解】基礎的研究法 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】文章読解、日本語文章作成、コミュニケーション、自己表現、発表力
	◆キリスト教ヒューマニズム関連科目 「人間学Ⅰ(再)」 「ゼミナールⅠ」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、哲学、文化 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【態度・志向性】自己形成力(「人間学Ⅰ(再)」) 【協働・共生】他者との協働力(「人間学Ⅰ(再)」)	◆「基礎ゼミナール(再)」	【知識・理解】基礎的研究法 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】文章読解、日本語文章作成、コミュニケーション、自己表現、発表力
	◆キリスト教ヒューマニズム関連科目 「キリスト教文化入門」 「倫理学」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、哲学、文化 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力	◆体育理論・実技教養科目 「体育理論(ウェルネスと身体)」 「体育B」	【知識・理解】体育理論 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、体育実技力
			◆人文系、社会科学系、およびその他の教養科目 「歴史学B」 「哲学B」 「音楽B」 「社会学B」 「日本国憲法B」 「法学B」 「教育学B」 「経済学B」 「経営学B」 「社会福祉入門B」 「マスメディア論B」 「数学A」「数学B」 「心理学B」	【知識・理解】人文学、社会科学、科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
(第三セメスター・応用期)	◆キリスト教ヒューマニズム関連科目 *「人間学Ⅰ」 「人間学Ⅱ」 「宗教学A」「宗教学B」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、哲学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【態度・志向性】自己形成力(「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」) 【協働・共生】他者との協働力(「人間学Ⅰ」)	◆体育理論・実技教養科目 「体育理論(ウェルネスと身体)」 「体育B」	【知識・理解】体育理論 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、体育実技力
			◆情報リテラシー系教養科目 「基礎コンピュータ演習」	【知識・理解】情報学 【思考・判断】IT倫理・セキュリティ 【技能・表現】データ処理、文書作成、自己表現、コミュニケーション力
			◆人文系、社会科学系、およびその他の教養科目 「人間学Ⅱ」 「歴史学A」 「哲学A」 「音楽A」 「宗教学A」「宗教学B」 「社会学A」 「日本国憲法A」 「法学A」 「教育学A」 「経済学A」 「経営学A」 「社会福祉入門A」 「マスメディア論A」 「心理学A」	【知識・理解】人文学、社会科学、芸術 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
			◆*「基礎ゼミナール」	【知識・理解】基礎的研究法 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】文章読解、日本語文章作成、コミュニケーション、自己表現、発表力
(第二セメスター・発展期)	◆キリスト教ヒューマニズム関連科目 *「人間学Ⅰ」 「人間学Ⅱ」 「宗教学A」「宗教学B」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、哲学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【態度・志向性】自己形成力(「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」) 【協働・共生】他者との協働力(「人間学Ⅰ」)	◆体育理論・実技教養科目 「体育理論(ウェルネスと身体)」 「体育B」	【知識・理解】体育理論 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、体育実技力
			◆情報リテラシー系教養科目 「基礎コンピュータ演習」	【知識・理解】情報学 【思考・判断】IT倫理・セキュリティ 【技能・表現】データ処理、文書作成、自己表現、コミュニケーション力
			◆人文系、社会科学系、およびその他の教養科目 「人間学Ⅱ」 「歴史学A」 「哲学A」 「音楽A」 「宗教学A」「宗教学B」 「社会学A」 「日本国憲法A」 「法学A」 「教育学A」 「経済学A」 「経営学A」 「社会福祉入門A」 「マスメディア論A」 「心理学A」	【知識・理解】人文学、社会科学、芸術 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
			◆*「基礎ゼミナール」	【知識・理解】基礎的研究法 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】文章読解、日本語文章作成、コミュニケーション、自己表現、発表力
(第一セメスター・準備期)	◆キリスト教ヒューマニズム関連科目 *「人間学Ⅰ」 「人間学Ⅱ」 「宗教学A」「宗教学B」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、哲学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力 【態度・志向性】自己形成力(「人間学Ⅰ」「人間学Ⅱ」) 【協働・共生】他者との協働力(「人間学Ⅰ」)	◆体育理論・実技教養科目 「体育理論(ウェルネスと身体)」 「体育B」	【知識・理解】体育理論 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、体育実技力
			◆情報リテラシー系教養科目 「基礎コンピュータ演習」	【知識・理解】情報学 【思考・判断】IT倫理・セキュリティ 【技能・表現】データ処理、文書作成、自己表現、コミュニケーション力
			◆人文系、社会科学系、およびその他の教養科目 「人間学Ⅱ」 「歴史学A」 「哲学A」 「音楽A」 「宗教学A」「宗教学B」 「社会学A」 「日本国憲法A」 「法学A」 「教育学A」 「経済学A」 「経営学A」 「社会福祉入門A」 「マスメディア論A」 「心理学A」	【知識・理解】人文学、社会科学、芸術 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
			◆*「基礎ゼミナール」	【知識・理解】基礎的研究法 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】文章読解、日本語文章作成、コミュニケーション、自己表現、発表力

アスタリスク(*)のある科目については、第三セメスター以降用の再履修科目のみが開講されます。

学位授与の方針	共通科目	上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマニズムを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探索し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民的立場から多文化共生の理念を実践できる人材を育成します。
	各方針	3. 自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます
	各方針概要	英語を実践的かつ学術的に運用するために重要な主題として、(1) 自己形成と他者との共存、(2) 異文化・多文化、(3) 日本における社会問題、(4) 日本との問題と国際問題、にかかわる知識とともに、自己発信力に重点を置いた4技能（読む・書く・聴く・話す）を身につけることができます。

英 語 力		
科目名・科目群名	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点
(第四セメスター・完成期)	◆英語で学ぶ専門科目 「文化人類学」 「平和と開発」 「リテラシーと多文化教育」	【知識・理解】異文化、コミュニケーション、言語、教育、倫理、平和、国際開発 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
	◆「ゼミナールⅡ」	【知識・理解】人文学、社会科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力 【態度・志向性】研究での自律性 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ B」	【技能・表現】自律研究、研究発表力
	◆「TOEIC対策講座Ⅰ(再)」 「TOEIC対策講座Ⅱ(再)」	【知識・理解】ビジネス事情 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】読解・リスニング
	◆「英語Ⅳ」 「英語Ⅰ(再)」 「英語Ⅱ(再)」 「英語Ⅲ(再)」	【知識・理解】日本と世界との関係 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力

(第三セメスター・応用期)	◆英語で学ぶ教養・基礎・専門科目 「異文化間コミュニケーション」 「現代美術」	【知識・理解】キリスト教思想・倫理、異文化、コミュニケーション、言語、美術 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
	◆「ゼミナールⅠ」	【知識・理解】人文学、社会科学 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力 【態度・志向性】研究での自律性 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ A」	【技能・表現】自律研究、研究発表力
	◆英語スキルズ科目 「基礎(文法・語彙)」 「標準(ディスカッション)」 「標準(編入対策)」 「標準(ホスピタリティの英語)」 「標準(日本の文化)」 「準上級(TOEICスピーキング・ライティング対策)」 「準上級(多読速読)」 「上級(編入対策)」 「上級(SDGs)」	【知識・理解】言語、異文化、国際問題、社会問題、学術的専門分野、ビジネス、キャリア形成 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
	◆「TOEIC対策講座Ⅰ(再)」 「TOEIC対策講座Ⅱ(再)」	【知識・理解】ビジネス事情 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】読解・リスニング
	◆「英語Ⅲ」 「英語Ⅰ(再)」 「英語Ⅱ(再)」	【知識・理解】日本における社会問題 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力

(第二セメスター・発展期)	◆英語で学ぶ教養・基礎・専門科目 「文化人類学」 「平和と開発」 「リテラシーと多文化教育」	【知識・理解】異文化、コミュニケーション、言語、教育 【思考・判断】課題発見・分析力、論理的・批判的思考力 【技能・表現】ノートテイキング、文献読解、論文作成力
	◆*「ブレ・ゼミナール」	【知識・理解】人文学、社会科学 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】専門文献読解、研究論文作成、研究発表、討論力育成への準備 【態度・志向性】自律した研究への準備 【協働・共生】討論を通じた他者との協働力
	◆英語スキルズ科目 「基礎(リーディング・ライティング)」 「標準(リーディング・ライティング)」 「標準(メディア・ニュースの英語)」 「標準(リーディング・ライティング)」 「準上級(ライティング・文法)」	【知識・理解】言語、異文化、国際問題、社会問題、学術的専門分野、ビジネス、キャリア形成 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
	◆*「TOEIC対策講座Ⅱ」	【知識・理解】ビジネス事情 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】読解・リスニング
	◆*「英語Ⅱ」	【知識・理解】異文化との遭遇 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力

(第一セメスター・準備期)	◆英語スキルズ科目 「基礎(文法・語彙)」 「標準(ディスカッション)」 「標準(編入対策)」 「標準(ホスピタリティの英語)」 「標準(日本の文化)」 「準上級(TOEICスピーキング・ライティング対策)」 「準上級(多読速読)」 「上級(編入対策)」 「上級(SDGs)」	【知識・理解】言語、異文化、国際問題、社会問題、学術的専門分野、ビジネス、キャリア形成 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力
	◆*「TOEIC対策講座Ⅰ」	【知識・理解】ビジネス事情 【思考・判断】論理的思考力 【技能・表現】読解・リスニング力
	◆*「英語Ⅰ」	【知識・理解】他者との共存の諸問題 【思考・判断】論理的・批判的思考力 【技能・表現】自己発信力・4技能 【協働・共生】ペア・グループワークでの協働力

アスタリスク(*)のある科目については、第三セメスター以降用の再履修科目のみが開講されます。

学位授与の方針 （卒業認定・学位授与の方針）	共通科目 各方針 各方針 各方針	上智大学短期大学部英語科では、キリスト教ヒューマニズムを基盤とする豊かな教養を修得します。また自己発信に重点を置いた実用的かつ学術的な英語力とともに、多様な文化、歴史、思想とかかわる現象を批判的に考察し、自らの考えを発信し、主体性を持ち他者と協働できる力を獲得します。それらを礎として、継続的に言語及び学問上の課題を探究し続けるための方法と志向を持ち、同時に地球市民的立場から多文化共生の理念を実践できる人材を育成します。
	4. 専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます	5. 地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます
	異文化理解、英米文学研究、言語研究、言語教育、多文化共生、及び国際問題とかかわる分野の知識を獲得し、論理的、批判的思考に基づき、研究する力を身につけることができます。自律した学修者として課題を自ら設定し、それらに挑戦し続けることのできる意欲と技能を持つことができます。	国際的な諸問題、そしてその背後にある文化、歴史、思想を、自らの生とかかわりにおいて理解し、地球市民としての問題意識をもち、国内外における国際社会が抱える問題の解決、及び多文化共生社会の実現に向けた実践ができます。

専 門 力		地域の国際化・多文化共生力	
科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点	科目名・科目群名	主な学修成果獲得の観点
（第四セメスター・完成期） 主な履修学期	◆「ゼミナールⅡ」「ゼミナールⅠ（再）」	◆日本語教育SL科目 「ゼミナールⅡ」 「サービ斯拉ーニング（小中学校日本語支援B）」 「サービ斯拉ーニング（地域日本語支援B）」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育理論、多文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】多文化間の協働・共生力
	◆専門科目 異文化理解領域科目「西洋研究」「国際関係論」「文化人類学」「倫理学」「平和と開発」 英米文学研究領域科目「英詩研究」「小説研究」 言語研究領域科目「音声学」「日本語学」「語用論」「バイリンガル教育」 言語教育領域科目「初等教育」「サービ斯拉ーニング（児童英語教育B）」「サービ斯拉ーニング（小中学校日本語支援B）」「サービ斯拉ーニング（地域日本語支援B）」「リテラシーと多文化教育」	◆児童英語教育SL科目 「ゼミナールⅡ」 「サービ斯拉ーニング（児童英語教育B）」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育理論、多文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ B」		
	◆基礎科目 「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「日本語表現法」		
	◆専門科目群基礎科目 「キリスト教文化入門」「英文学概論」「言語学概論」「児童英語教育概説」		

（第三セメスター・応用期） 主な履修学期	◆「ゼミナールⅠ」「プレ・ゼミナール（再）」	◆日本語教育SL科目 「ゼミナールⅠ」「プレ・ゼミナール（再）」 「サービ斯拉ーニング（小中学校日本語支援A）」 「サービ斯拉ーニング（地域日本語支援A）」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育理論、多文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】多文化間の協働・共生力
	◆専門科目 異文化理解領域科目「東洋研究」「比較社会史」「国際関係論」「現代美術」「比較・国際教育学」 英米文学研究領域科目「映画と文学」 言語研究領域科目「社会言語学」 言語教育領域科目「サービ斯拉ーニング（児童英語教育A）」「サービ斯拉ーニング（小中学校日本語支援A）」「サービ斯拉ーニング（地域日本語支援A）」	◆児童英語教育SL科目 「ゼミナールⅠ」「プレ・ゼミナール（再）」 「サービ斯拉ーニング（児童英語教育A）」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育理論、多文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
	◆自律研究科目 「インデペンデント・スタディ A」		
	◆基礎科目 「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「スペイン語Ⅱ」「中国語Ⅱ」「韓国語Ⅱ」「日本語表現法」		
	◆専門科目群基礎科目 「異文化間コミュニケーション」「英文学概論」「言語学概論」「児童英語教育概説」		

（第二セメスター・発展期） 主な履修学期	◆*「プレ・ゼミナール」	◆日本語教育SL科目 *「プレ・ゼミナール」 「サービ斯拉ーニング（小中学校日本語支援B）」 「サービ斯拉ーニング（地域日本語支援B）」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】多文化間の協働・共生力
	◆専門科目群基礎科目 「キリスト教文化入門」「英文学概論」「言語学概論」「児童英語教育概説」	◆児童英語教育SL科目 *「プレ・ゼミナール」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
	◆基礎科目 「日本語表現法」「キャリアプランニング」	◆専門科目群基礎科目 「児童英語教育概説」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
		◆教養科目 「教育学B」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力

（第一セメスター・準備期） 主な履修学期	◆基礎科目 「ドイツ語Ⅰ」「フランス語Ⅰ」「スペイン語Ⅰ」「中国語Ⅰ」「韓国語Ⅰ」「日本語表現法」	◆「サービ斯拉ーニング入門講座」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
	◆専門科目群基礎科目 「異文化間コミュニケーション」「英文学概論」「言語学概論」「児童英語教育概説」	◆専門科目群基礎科目 「児童英語教育概説」	【知識・理解】キリスト教奉仕の精神、言語教育、異文化、ボランティア論 【技能・表現】言語教育力 【態度・志向性】地域社会での課題発見および解決力、地球市民としての責任感 【協働・共生】地域社会の国際化のための協働力
	◆専門科目 「サービ斯拉ーニング入門講座」		

アスタリスク（*）のある科目については、第三セメスター以降用の再履修科目のみが開講されます。

3. 英語科卒業認定・学位授与の方針と開講科目との関連

「上智大学短期大学部英語科卒業認定・学位授与の方針」(P.6)で明示している5つの資質・能力と、それらに到達するために履修すべき科目と科目が持つ主な学修成果の観点が「上智大学短期大学部英語科カリキュラムマップ2025 (P.50～52)」で記されています。

また、それぞれの科目を受講することで、どのような学修成果を得られるかが把握できるようにするため、P.65以降の「開講科目表」では、その関連性を一覧で示しています。そこでは、「英語科卒業認定・学位授与の方針」で定める5つの資質・能力について、1から5の番号で表しています。また、具体的な学修成果獲得の観点について、1-①から5-③までの数字によって関連する科目として表しています。

4. 特色ある学び—サービスラーニング

サービスラーニングとは「社会参加、実践を通じた学外での学びと、授業などの学内での学びの融合」を意味します。社会奉仕活動(サービス)を通して社会参加を行い、そこで得られる学びと授業を通して得られる学び(ラーニング)を効果的に結びつけて、「社会の知恵」と「教室の知識」を融合する試みです。

キリスト教ヒューマニズムにおける他者への奉仕の精神に則った本学のサービスラーニング活動の中核を成すのは、多文化共生社会の実現に向けた言語教育の実践である地域の外国籍市民を対象とした日本語支援や教科学習支援活動、また地域社会の国際化を目指して、地域の教育機関や公共施設で行う児童英語教育支援活動です。それらは「他者のために、他者ととともに(For Others, With Others)」という上智の教育精神を体現する活動であり、学生はこれらを通して社会人基礎力と人間力を育み、共同体と社会の主体的な構成員として、自らの意思によって積極的に共同体と社会を形成し参画し、確かな責任を担うことのできる女性へと成長してゆきます。

(1) 日本語・教科学習支援活動

本学の日本語・教科学習支援活動は、1988年に学生と教職員によって外国籍市民宅で、日本語や生活の支援を行う形でスタートしました。現在は秦野市との連携のもと、「カレッジフレンド」として、市内の小中学校に学生が赴いて、国際教室(外国につながるのある児童生徒のための日本語教室)で担当教諭の指示の下で日本語学習を手伝ったり、あるいは通常の授業に入り、外国につながるのある児童生徒に寄り添って、日本語や教科学習の手助けを行っています。また、「コミュニティフレンド」として本学や公民館などの公的施設で、外国につながるのある児童生徒や成人に対しても支援を行っています。

このような活動を通して、学生は異文化や語学教育への理解を深め、主体的な奉仕の精神を体験的に学びます。また、地域の方々との関わりにより、コミュニケーション能力などの社会人基礎力も培っていきます。

(2) 児童英語教育支援活動

本学では、児童英語教育に興味を持つ学生が、歌やゲームを取り入れたコミュニケーション活動を軸においた英語のレッスンを地域の幼稚園、保育園、小学校などで行い、子どもたちに英語の楽しさを感じてもらおうボランティア活動を、15年以上続けてきました。現在は、秦野市教育委員会との連携のもと、「イングリッシュフレンド」として、秦野市内の公立小学校に赴き、さまざまな英語アクティビティを取り入れた英語レッスンを行います。また、「キッズイングリッシュフレンド」として、定期的に市内の公共施設で幼児への英語絵本読み聞かせ等を行っています。

このような活動を通して、学生は自分自身の英語力強化のみならず、児童英語および小学校英語での教育、実践的な学びや更なる言語教育分野への理解を深めます。

上記のようなサービスラーニング活動を支援するため、学生総合支援センター サービスラーニング部門(サービスラーニングセンター)を4号館2階、及び2号館2階に設置しています。(開室時間はP.20参照)当部門は地域社会への窓口として、地域の教育機関、公的機関、団体、および家庭と連携し、本学学生が行う様々なサービスラーニング活動を支援します。コーディネーターおよびチューターと呼ばれるスタッフが常駐しており、教員と連携して学生に対して活動のアドバイスを行うほか、派遣先とスケジュールや人員の調整などを行っています。また、本学は「秦野市と上智短期大学との提携に関する協定書」を締結し、秦野市と連携して活動の充実を図っています。

5. サービスラーニングとカリキュラムとの関連

サービスラーニングは学外での学びと授業などの学内での学びの融合であることは既述のとおりですが、学内での学びとして、基礎・専門科目群に日本語教育と児童英語教育に関連する科目が置かれています。学生はこれらの科目を履修することで、学問的な裏付けを持って活動に臨むことができます。

「サービスラーニング入門講座」はサービスラーニング活動を希望する全ての学生に履修することを推奨する科目で、本学の教育精神とサービスラーニングとの関連、活動の心構え、活動概要、秦野市の地域特性や課題、教育現場のニーズ等について学びます。

日本語教育の関連科目として、「バイリンガル教育」、「日本語学」などが開講され、成人や年少者への日本語支援や日本語の構造に関する理論的、体系的知識を得ることができます。また、「サービスラーニング（小中学校日本語支援）」、「サービスラーニング（地域日本語支援）」は、講義と実習（学校または日本語教室での日本語・教科学習支援）がほぼ交互になるように構成され、講義では日本語教育、多文化共生等について学ぶほか、実習の計画や振り返りも行います。日本語教室での活動については、科目を履修せず、ボランティアとして行うことも可能です。

また、児童英語教育の関連科目として、「児童英語教育概説」、「サービスラーニング（児童英語教育 A・B）」などが開講され、英語教育全体の概観、言語習得理論、英語教育の方法論を学ぶことができます。

英語の公教育が大きく変わり、小学生から英語を習うようになりました。2011年度より小学校5・6年生の「外国語（英語）活動」が必修化され、2020年には新しい学習指導要領のもと、3・4年生での「外国語（英語）活動」の必修化、5・6年生での「外国語（英語）」が教科化され、ますますコミュニケーション的な英語教育の実施が求められています。

6. サービスラーニングとアクティブラーニングとの関連

本学で開講されるサービスラーニング関連科目（児童英語教育演習科目及び日本語教育と関連したゼミナール科目）およびそれらに伴う教育支援活動は、アクティブラーニングの実践の場としても位置づけられています。上記の科目では、学生は英語教育や日本語教育の理論と実践法について授業で学び、それを基に地域社会の教育機関等で教育支援活動を行い、さらにそこで発見した課題を学内に持ち帰り議論するという形が取られ、能動的（Active）な実践と課題解決型の学び（Project Based Learning）が重視されています。学生は地域社会での活動を通じて、地域の人々と対話・交流し、社会が直面する言語教育や多文化共生等に係る課題を発見するよう努力します。それらの課題について、学内で教員や他の学生と議論を重ね、協働的な試みを通して、学びを深めます。また地域社会で得た気づきについて、教員および他の学生と共有し意見交換を行い、さらにそれが教室内での議論を活性化します。学生は自ら実践した授業活動の様子を収めた映像を学内で共に分析し、LESSONプランや教授法を向上させることもあります。

このように、学内と地域社会における教育支援活動の実践を核とした能動的な学びを通して、言語教育への理解及び実践力を高め、多文化共生に係る言語や教育、文化、そして社会的課題への理解を深め、同時にコミュニケーション力や社会人基礎力、課題発見・解決力といった汎用的能力（Generic Skills）をも身に付けていきます。